

Oguu

2022.MAY
Vol.14

高校生が発信する小国の魅力いっぱいマガジン



「白い森未来探究学」地域に浸る講座

大宮子易両神社 小国町農業振興公社
おぐにマルチワーク事業協同組合

生徒英訳
付き



JUNICHI
TAKAHASHI



NARUAKI
ENDO



YUTO
YOSHIDA



Oguu

電子版



山形県立小国高等学校
〒999-1352 山形県西置賜郡小国町岩井沢6 2 1
0238-62-2054
編集：令和4年度 2 学年生徒一同

SPECIAL INTERVIEW

おぐまん（小国高校公認キャラクター）

× 吉田悠斗（おぐにマルチワーク事業協同組合）



「吉田さんは、今どんなお仕事をされていますか？」

「人材派遣業を中心とした“おぐにマルチワーク事業協同組合”を運営しております」



「どんな会社でしょうか？」

「人材派遣といったんですが、ただ人材を派遣するだけではないんです。小国町外、山形県外から人を集めて、小国町の暮らしを楽しんでもらっています。例えば冬はガスエネルギーの会社に行ったり、木質ストーブの会社に行ったり、日本酒を作る会社に行ったり。春は田植えをする農家さん。夏は草刈り。秋はコメの収穫。季節ごとの仕事を組み合わせ、季節ごとに人手が足りていない場所に人材を派遣することで、町内事業者の労働力不足を解消しようとする、そんな会社です」



「そもそもなぜマルチワーク事業を始めようと思ったんですか？」

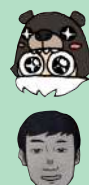
「最初にこのマルチワークの仕組みを考えたのは、小国町の農家さんたちです。農業ってすごく繁忙期と閑閑期の差が激しくて例えば、4月から5月まで田植え忙しいけど、夏はそこまで人手はいらない、秋は収穫で人手が欲しい。でも冬は全く仕事がない。このように通年で人を雇用するのは非常に難しいんです。でも例えば小国だと、冬に除雪機のオペレーターが不足していたりします。何かそういった季節ごとの仕事を組み合わせれば、人を一人雇えないだろうか。そういったところを小国町役場に提案したところ、それは町内事業者にとって、労働力不足の解消にもなると受け入れてもらえました。

そしてマルチワークをしたいということで、小国町外・山形県外から人が集まってくるんじゃないかということで、4年前に移住政策としてマルチワーク構想が出ました。僕は地域おこし協力隊を今年(2021年)の5月に卒業したんですけれども、卒業する一年位前に小国町役場の方から、運営の中心となってやってみないかというお話を頂き、僕が代表を務めることになりました」



「大変だったこと、うれしかったことは何ですか？」

「現在進行形で大変だと思っていることは、仕事のマッチングですね。町内の事業者としては人材を欲していますが、行政としては移住政策として人を呼び込みたいという思いがある。例えば、小国町らしい働き方暮らし方で都会から人を集めるとすると、多くの場合は雪国の生活に慣れていないんですよ。車の運転に慣れていなかったり、草刈り機の扱いに慣れてなかったり。しかし事業者の方々が求めているのは、すぐ車を運転して何かを運んでくれたり、すぐ草刈りをしてくれる人を求めているんです。どのようにその溝を埋めていくのかが課題になっています。嬉しかったことは、僕の思いに賛同して仲間が集まってくれたことです」



「大切にしている考え方は何ですか？」

「僕は地元埼玉にも、働いていた東京にも、ふるさとという感覚がないんですよ。小国で暮らして3-4年経って、小国は人のつながりが圧倒的に強いことを感じています。埼玉に帰省して、小国に戻ってくると、『おかえり』と言ってくれる人が多い。自分の人生で故郷をもっているということはすごくプラスなことだと思っています。例えば、アイデンティティみたいなものに関わると思っていて、自分の根っこみたいな、どこかの土地に根差した土地がある生活が好きだっていう人には、故郷があるっていうのはすごく素敵なことだと思っています。都市部で育って故郷を感じられない人が、ここ小国町に来て故郷だと思ってもらえる可能性って僕以外にもあると思っています。」



「この先目指していることは何ですか？」

「小国町が持続可能な町になることです。未来に小国町をふるさとだと思ってくれる人のために、50年後も100年後も残っているような町にしたいと考えています。最近すごくサステナビリティなどが注目されるようになってきた。その中で、小国町にはいろんな人に訪れてほしいと思っています。いろんな人が来てくれることによって、町内の事業者が新しい風を受け入れて変わっていくこと、小国町マルチワーク事業として、目指しているところです。移住者を派遣することで町の産業が維持発展していく。そういう状態を目指しています」

なんか.. 色々できるらしいぞ?!

おぐにマルチワーク事業協同組合

小国は人口が少ないため、職種も少ないと思っていた。そんな小国町に都会から人が来ているなんてありえないと思っていた。しかし、大宮神社の近くにシェアハウスがあると聞き、行ってみた。シェアハウスには現在5名の人に住んでいることが分かった。しかも、その代表の吉田悠斗さんはマルチワーク事業をしていた。マルチワーク事業は、1つのことだけではなく、季節ごとに複数の仕事に携わることが出来る仕組みだ。



シェアハウス



吉田悠斗さん

例えば、春には種まきや田植え、夏には草刈り、宿泊業、秋には稲刈り、冬にはペレット配達や酒造業をすることが出来る。行ってみて、小国には町外だけでなく県外からも人が来ていて、様々な仕事があることが分かった。またこの事業を通して、自分に合う仕事を見つけたり、自分の好きな土地にしながらオンラインで東京の仕事をしていたりする人もいることを知った。小国、意外と進んでめっちゃ今時じゃん！



雪かきボランティア
in 大宮神社

We went to a share house near Omiya Koyasu Shrine. Five people are living there now. They came from other prefectures.

Mr. Yoshida started the house to offer a place to live for people who come to Oguni from other places.

He also started a new business model. He made a system for people to have multiple jobs easily. With this system, people can choose jobs according to seasons or their interests. They look happy because they can do what they want to do.

SPECIAL INTERVIEW

おぐまん（小国高校公認キャラクター）

× 高橋潤一（小国町農業振興公社）



「高橋さんは、今どんなお仕事をされていますか？」



「農業振興公社では、主に餅と味噌の加工をしています。

そのほかにも様々なものの加工をしておりますが、すべて小国町の食材を使って食品の加工をしております」



「いつから事業をされていますか？」



「農業振興公社の事業所は、27年位前に建てられましたが、加工の仕事は24年前から始めました。私どもは大変恵まれていて、この施設はもともと町が、高齢者が生き生きと暮らしていけるようにという思いから作られました。農家が冬の収入が少ないので、その期間に副業が出来るように、という思いから始めたのです」



「お仕事をされている中で、大変だったこと、嬉しかったことは？」



「最初に餅と味噌を加工することになったのですが、私たちは農家の出身だったので、加工の専門家はいなかったので、最初は家庭で作っている感覚で、作っていたんですが、それが思いのほか大変で、例えば、ちょっと水が多かっただけで、餅が粘っこくなりすぎてしまったり、カビの問題もありました。その辺のことが悩みになりました。

嬉しかったのは、商品として売ってもいいだろう！ってなった頃、アスモの西側の駐車場でテントを張って直売所を開いた時ですね。開店は10時だったんですけど、準備して行ってみると、すごい行列が出来て、袋詰めしたり、お金もらったりがぐちゃぐちゃになるみたいな。あれ、お金もらったっけ？みたいな。そんな感じでたくさん買ってくれて、本当にやってよかったなと思いました」



「大切にしている考え方は何ですか？」



「一番大きなことは、出来る限り町内で生産されたものを使って、町内の方々に提供できたらいいなあと思っています。最初から大量に生産するのはなかなか出来なかったの、何人かの方に作っていただいて、その原料を使って続けてきました。



「奥さんがご家庭で発揮される技とは？」



「山菜を使った料理とか、ゆべしを使った料理とかですね。あと餅つきなんかは、公社で働いているから得意な仕事。だけど、餅のふかし方は若い人たちは知らないんですよ。そういう簡単なところから、地元の料理の技を若い世代に伝授していきたいですね」



「農業振興公社さんの商品紹介をお願いします」



「まず開業当初から作っていた“小国味噌”。都会向きの半分サイズもあります。“秘伝豆ポリポリ”という豆菓子もあります。そして“きりもち”ですね。12月頃、プレゼントとしてよく売れます。最近は、お餅をもっと広く食べてもらうために“キャンプ餅“を開発しました。うすいお餅です。高校生だったらペロッと食べちゃうかなと思います。お餅といえば、お雑煮とかが定番ですが、この薄いお餅は、チーズと餅を一緒にパンに挟んで食べたり、あとはスープに入れても美味しく食べられます」



「この先目指していることは何ですか？」



「若い人の新しい感覚を持って、若人と一緒に商品開発などできたらいいですね。ですから若い人たちには、一旦小国町の外に出てもいいので、いっぱい色んな経験をしてほしい。また戻ってもいいかなと思ったら、戻ってきて一緒に働きましょう。

つい最近、紹介したキャンプ餅を子ども食堂に届けたら、子供たちからお手紙が送られてきました。いろんな人との交流の形を考えながら、やっていけたらいいなあと思いましたね。“餅の市”というのをアスモでやっているのですが、その時たくさんお客さんが来てくれるんです。その時、高校生と一緒に何かできたらいいなあと思っています」

「秘伝豆ポリポリ」を知っていますか??

小国町農業振興公社の人気商品です。

王道に行く一番人気の塩味。さらっと砂糖でコーティングされた甘味。大人な味でお酒が進む辛味。

どれも試食させていただきましたが、とても美味しかったです。豆菓子には珍しく、豆と同じくらいの大きさのあられが入っていました。食べると止まらない秘伝豆ポリポリ。一度手に取ってみてはいかがでしょうか？



Please try Pori Pori !!

Do you know the bean snack "Hidenmane Pori Pori"? The standard is a salty flavor. This is the most popular. There's also a sweet one. The beans are coated with sugar. Spicy flavor beans go well with alcohol. We tried all of them and they were very delicious. The bean snacks sometimes come in small pebble shaped Japanese rice crackers called "Arare". If you start to eat "Hidenmane Pori Pori," you can't stop. Please give it a try!

みそを巡る三角関係

味噌をめぐる複雑な関係に出会ってしまった

普通味噌はうるち米からこうじを作ってそれを使うらしい。だが、ここは違う。こうじはもち米から作るのだ。甘さが増すのである。なぜもち米を使うと甘くなるのか、今度調べてみたい。

このように、味噌ともち米のコンビは素晴らしいのである。しかし私たちは、衝撃的な事実を聞いてしまった。なんと、味噌ともち米の組み合わせとは別に、あるキノコと味噌のコンビを開発中らしい。



そのキノコとは、キクラゲだ。小国きんたけ工房で作られたものらしい。この新しい組み合わせは、「キクラゲ味噌」といって、ご飯のお供になるそうだ。ここで地元のものを使うのは何故かという、高橋さんはできるだけ地元のものを使うことを大切にしているからだ。もち米と味噌は甘味が増し、キクラゲと味噌はご飯のお供になる。どちらが味噌に合うのか、味噌を巡るこの三角関係、どのようになるのかとても興味深い。

Miso's love triangle

One day we met Miso's love triangle. "Koji" commonly used for miso, is made from rice. But the Oguni Town Agricultural Promotion Company also uses a different type of Koji made from sticky rice. It makes miso sweeter. The combination of miso and sticky rice has been wonderful. But we heard a shocking fact.

This company is trying to make a new combination; miso and mushrooms. The new combination called "Kikurage Miso" is good for eating with rice. Mr. Takahashi, the leader of the company, values the use of local products so he wanted to make a new product using mushrooms grown in Oguni town. So miso, sticky rice, and mushrooms are making a love triangle now!



おもちもちもち、 I love mochi.



キャンプ餅とは一体何だろうか

私たちは小国町農業振興公社で調査をしてきた。農業振興公社は、餅と味噌の加工や、町内でとれたものをメインとして商品を作っている場所だった。

ここでは通常の切り餅も作っているが、切り餅は量が多くて都会向けではなかったため、量が少なく手軽に食べられる「キャンプ餅」を発売した。

おすすめは、そのままカップスープやカップラーメンに入れることだ。数十秒で餅がとろとろになり、口の中が幸せになる。ほかにホットサンドメーカーなどでベーコン、チーズ、餅を挟み焼くのもよい。

What is “Camp Mochi”?

We researched the Oguni Town Agricultural Promotion Company. They make mochi and miso in Oguni town. Once they made “Kirimochi”, cut mochi, but it was too large and wasn't for the people in the city. So they made a new item that was easy to eat. It is called “Camp Mochi”. You should put it in cup soup and cup ramen. The mochi melts fast, happily in your mouth. If you'd like to grill mochi, you can grill it with bacon and cheese in a hot sandwich maker. It's very delicious and makes you smile when you eat it.



SPECIAL INTERVIEW

おぐまん（小国高校公認キャラクター）

× 遠藤成晃（大宮子易両神社 宮司）



「大宮子安両神社の歴史について教えてください！」

「大宮子易両神社は和銅五年（西暦712年）から1,300年以上続いている、歴史ある神社です。正式名称は“大宮子易両神社”なのですが、これは大宮神社という神社と、子易神社という神社が合わさってできた神社です。こういう神社全国にもありますけれども、こういった神社は“合祀社”といいます。

神社が鎮座するまえ、小国町に国道が走っていなかった時代、神社の前を走っている道路が昔の旧道でした。ここが新潟県からの入り口だったんです。小国町が開拓されていない時期、新潟県から開拓団みたいな人たちが小国に入ってきて、生活が始まった。それに伴って、地元の神様をお招きして、鎮まってもらおうということでこの神社の始まりました。その開拓団の人たちが静岡県の方で、今の静岡県に「小國神社」というお社がありまして、神様を分けて、お祀りしたのが起源です。

それから、数百年たって江戸時代に子易神社と大宮神社が合わさって、今の大宮子易両神社になりました。今の小国高校の辺りにあった子易神社を（これは推測ですが、もしかしたら水害にあって？）大宮神社に持って来ました。大宮子易両神社では、5柱の神様をお祀りしています。



「5柱!? どんな神様なんですか？」

最初の大宮神社では、大国主命をお祀りしていました。後から来た子易神社では4柱の神様をお祀りしていました。木花咲耶姫、高皇産霊尊、神皇産霊尊、国常立尊。この神様たちは、『産霊（むすひ）』の力というものを持っています。その力は森羅万象、生きとし生けるものに生命を与えて育むという一連の流れの力のことなんです。その産霊の力をお持ちだということで、例えば子授け、それから安産、それから子育て、そして縁結びの神様ということで、県内外のお客様に昔から親しまれています」



「神主という仕事について教えてください」



「厄除け・家内安全などいろいろ祈願はあります。1,300年以上、神様はここに鎮まっていて、ずっとずっとその間、生きている人たちの願いだったり、思いだったりを聞いてくださっているんです。そこには時代時代の神主がいて、神社を守ってきた歴史がある。1300年ってすごいと思いませんか？（笑）東北とか、関東を見てもそんなに長く続いている神社を見たことがあまりない。歴史が長いから偉いというわけではないですが、地元の神社の歴史がこれだけ続いていることを、小国の皆さんに知ってもらいたいと思っています。

大宮神社の長い歴史の中で、私は点に過ぎないのです。その時代時代に存在した点としての神主を線として繋いでいくために、私は存在しているのかなと思います。そういう風に思いながら務めております。



「大切にしている言葉ってありますか？」



明治時代の俳人の方に、荻原井泉水という方がいらっしゃいます。その方がこんな詩をうたっていました。

『楠千年、さらに今年の若葉なり』

千年続く楠（くすのき）も、毎年毎年春に若葉を付けて冬にはその葉を枯らす。どんどんどんどん大きな幹にしていく。まさに自分という存在は若葉だなあと。責任を感じてプレッシャーを感じることもあるんですけど、誇りをもって、神主という仕事に取り組んでいます！」

1300年を超える神社が 小国町に!?

大宮神社の歴史を知っていますか？

大宮神社は、歴史を語るうえで欠かせないものです。しかし、今の小国町の人々は、大宮神社の歴史について知らない方が多いし、語り継ぐ人もあまりいないということが課題になっていました。そこで大宮神社でお話をお聞きしました。大宮神社は、西暦712年に作られて今年で1,300年目です。

静岡県の小國神社とのつながりがある大宮神社には、島国を作り出す力のある高皇産靈尊、神皇産靈尊や自然を生み出す力のある木花咲耶姫など、5柱の神様がいます。人々は自然への感謝や安産、縁結びの祈願をしてきました。これが、今現在まで続いていることが感慨深いと思いました。

今回のお話を聞いて、たくさんのことを学ぶことが出来ました。小国町の人に神社の歴史を語り継いでもらうために、学んだことをたくさんの人に自分たちが発信していきたいです。



大宮子易両神社



遠藤成晃さん

History of Omiya Koyasu Shrine

Omiya Koyasu Shrine has a long history, but young people in Oguni don't know its history and no one talks about it. This is a problem. This time we learned about its history at Omiya Koyasu Shrine. The shrine was built 1,310 years ago in 712.

There is a connection with the Okuni shrine in Shizuoka Prefecture. There are five gods at Omiya Koyasu Shrine. People thank nature, pray for giving birth easily, and good marriage. It is wonderful that we have kept this shrine until now.

元気な子が 産まれますように!!

「縁結び」の神様が宿る神社

大宮子易両神社の隅に置いてあるまくらの存在を知っていますか。

そのまくらは「安産まくら」と言い、安産を願ってまくらを1つ借りていき、無事産まれたら感謝を伝えるためにまくらを自分で作って借りたまくらと共に返すという風習があることを学びました。

また、大宮子易両神社には産霊（むすひ）の力というものがあり、「安産」の他にも「子授け」や「子育て」、「縁結び」など女性の方に嬉しい力がたくさんあるとおっしゃっていました。

だから、女性の方はもちろん良縁に恵まれない男性の方にも

大宮子易両神社を訪れてほしいと思います。

恋の悩みがあるそのあなた！ぜひ、大宮子易両神社に訪れ、神様に力をいただこう！



Pray for healthy children to be born

Did you know that there are many pillows in Omiya Koyasu Shrine? They are called “Anzan pillows”. People borrow the pillow to wish for a healthy childbirth. If healthy children are born, people make a new pillow and give it to the shrine. It is called the “Anzan pillow” custom. The god of the shrine, a spirit of birth, is known for its “Musubi Power”. “Musubi” means bringing people together. The spirit does this not just by bringing families together with new children but by connecting families through the “Anzan pillow” custom.

和と和をくっつけて 大きな和をつくる



お祭りの役割とは

皆さんは、「祭り」といえば何を思い浮かべますか？

私たちは、「祭り」とは屋台のことだと思っていました。しかし、イケメン宮司さんにお話をお聞きして、実際は神様の前で祈りや伺いを立てる神事を行うことが、本来の祭りだということを学びました。

祭りを通して、全てのものに感謝する、日本人の心を伝えていくことを今も大切にしているそうです。

「いただきます」に込められた自然の恵みへの感謝の気持ちなど、日本人はあたり前のことだと思っているかもしれないけど、外国人の方にとっては驚かれることが多いそうです。

また、神社には地域の和を育む役割もあります。大宮子易両神社のしめ縄は、地域の方と一緒に作っているとお聞きし交流できる場があるのは、とても素敵なことだと思いました。

私たちは、神社や地域の歴史を大切にし、これから感謝の気持ちを忘れず思いやりを持って生活していきたいと思いました。

Bringing Together People in Harmony and Peace

What do you imagine when you hear the word “festival”? We thought it meant an event with food stalls. But it wasn't. We talked to the priest and learned that the original meanings of festivals were celebrating gods. He thinks that it is important to pass down the souls of Japanese people through festivals. Shrines also have a role to keep people's harmony in the region. People living around the shrine make “Shimenawa” thick rope they display in front of the shrine, together. I felt it was very nice to have a place where people can interact with each other. We thought we should live life without forgetting the feeling of gratitude.

